

# 大学・教育委員会・学校と連携した教育改善に関する実践研究(VII)

— 鈴鹿市中学校における学校診断質問紙の構成について(II) —

Practical Study on Educational Improvement through Partnership among University,  
School and The Board of Education (VII)

The construction of Questionnaires for School Assessment to Middle High Schools in Suzuka City(II)

芝山 明義, 葛上 秀文, 佐古 秀一, 小野瀬雅人  
久我 直人, 小坂 浩嗣, 阪根 健二, 村川 雅弘  
阿形 恒秀, 末内 佳代, 前田 洋一

Akiyoshi SHIBAYAMA, Hidefumi KUZUKAMI, Hidekazu SAKO, Masato ONOSE  
Naoto KUGA, Hirotsugu KOSAKA, Kenji SAKANE, Masahiro MURAKAWA  
Tsunehide AGATA, Kayo SUEUCHI and Yoichi MAEDA

鳴門教育大学学校教育研究紀要

第28号

Bulletin of Center for Collaboration in Community  
Naruto University of Education  
No.28, Feb., 2014

## 大学・教育委員会・学校と連携した教育改善に関する実践研究 (VII)

－鈴鹿市中学校における学校診断質問紙の構成について (II)－

### Practical Study on Educational Improvement through Partnership among University, School and The Board of Education (VII)

The construction of Questionnaires for School Assessment to Middle High Schools in Suzuka City (II)

芝山 明義, 葛上 秀文, 佐古 秀一, 小野瀬雅人, 久我 直人, 小坂 浩嗣,  
阪根 健二, 村川 雅弘, 阿形 恒秀, 末内 佳代, 前田 洋一

\*〒772-8502 鳴門市鳴門町高島字中島748番地 鳴門教育大学  
Akiyoshi SHIBAYAMA, Hidefumi KUZUKAMI, Hidekazu SAKO, Masato ONOSE, Naoto KUGA, Hirotsugu KOSAKA,  
Kenji SAKANE, Masahiro MURAKAWA, Tsunehide AGATA, Kayo SUEUCHI and Yoichi MAEDA  
Naruto University of Education  
748 Nakajima, Takashima, Naruto-cho, Naruto-shi, 772-8502, Japan

**抄録：**平成23年度より、教職大学院を中心組織として、本学と鈴鹿市教育委員会は、平成23年3月連携事業に関する協定書を交わした。この事業の一環として、平成23・24年度に鈴鹿市内の中学校において、生徒用、教職員用並びに保護者用の質問紙調査を実施した。本研究では、平成23年度版の保護者用の調査項目の構成を検討して作成した平成24年度版の学校診断質問紙の構成について検証した。平成24年度版では汎用化のために、保護者用については3領域6下位領域の33項目を設定した。平成24年11～12月に実施した調査結果に関する主成分分析の結果、保護者用では4因子が抽出された。設定領域との対照では、若干の項目については異なった関連性を示したが、多くの項目については設定領域の診断項目としての妥当性が示された。

**キーワード：**質問紙調査, 学校改善, 学校診断

**Abstract :** On March 2011, Naruto University of Education, putting Advanced Practice of School Education as a center organization, signed an Agreement of Cooperative Project with Suzuka Board of Education. We carried out the questionnaire survey of junior high school students, teachers and parents of the students in Suzuka City at 2011 and 2012 on this Project.

The construction of the school assessment questionnaires for the parents of the 2012 version that examines those of the 2011 version are studied. In the 2012 version of the school assessment questionnaires, 33 items in the 3 categories / 6 subcategories at the parents were set up for generalized use. As a result of principal component analysis of survey data on November and December 2012, 4 factors were extracted in for the parents. Although a little item showed different relevancy from the setting, many items showed the validity as the assessment items of that.

**Keywords :** Questionnaire survey, School Improvement, School Assessment

#### I 課題の設定

本研究は、平成23年3月に本学教職大学院を中心組織として本学と鈴鹿市教育委員会が交わした連携事業に関する協定書にもとづき、平成23年度より教職大学院で立ち上げた「教育委員会・学校と連携した教育改善に関する実践的研究－鈴鹿市教育委員会との協同的關係による包括的な学校支援の展開－」プロジェクトの一環として実施している学校診断質問紙の構成に関する検討である。

本論では、平成23年度に実施した3種類の質問紙のうち保護者調査の質問紙の構成を検討し、平成24年度において再構成した質問紙の内容について、その調査結果から構成と内容の対応を検討する。なお、平成23・24年度に実施した生徒調査と教職員調査に関して、各質問紙の構成と内容の対応の検討は、芝山他(2013)として公表されている。

また、本プロジェクトの概要と平成23年度の経過については前田他(2012)として、同年度の生徒質問紙によ

る調査結果の概要については葛上他（2012）として公表されている。また、平成23年度を通じた成果についても同様に前田他（2013）、葛上他（2013）として公表されている。

## II 平成23年度における質問紙の構成とその分析

### 1. 調査項目の構成枠組

平成23年度に鈴鹿市中学校において実施された質問紙調査のうち、保護者調査では、分析の観点として、保護者による子どもの実態把握と、保護者の子どもへの働きかけ、そして文部科学省による学校評価の視点等に準拠した保護者による学校の取り組み理解（認知と評価）の3つの内容で構成した。その構成と配分された質問項目との対応は、次のとおりである。

- (1) 子どもの実態…11項目
- (2) 保護者の働きかけ…11項目
- (3) 学校の取り組み…17項目

保護者調査は以上の計39項目とし、以下の検討はこれらを対象とした。

### 2. 構成枠組に関する検証

まず、平成23年度版の保護者調査の質問紙に関しては、平成23年12月に1回実施した調査の資料に対して主成分分析（回転法はバリマックス回転を採用）を行い、事前に構成した枠組との対応の検証を試みた。資料の扱いはこの年度の拠点校4校分を一括して分析の対象とした。

集計の結果、有効回答数1651より、39項目から5因子が抽出された（表1）。各因子を構成する項目について、予め設定された領域に含まれる項目との関連は次のとおりである。

第1因子：学校の取り組み理解…17項目

- (3) 学校の取り組み…17項目

第2因子：保護者の働きかけ…14項目

- (1) 保護者の働きかけ…11項目
- (2) 子どもの実態…11項目中3項目（うち2項目は第3因子との境界）

第3因子：子どもの実態…6項目

- (1) 子どもの実態…11項目中6項目

第4因子：子どもの自信…1項目

- (1) 子どもの実態…11項目中1項目

第5因子：子どもの読書習慣…1項目

- (1) 子どもの実態…11項目中1項目

保護者調査について抽出された5因子の構成を検討すると、第1因子を構成する項目は「学校の取り組み」と対応しており、第3因子から第5因子までの3因子の各項目も「子どもの実態把握」の項目が下位の領域に細分化される形で対応している。ただし、第2因子を構成する項目は、想定していた「保護者の働きかけ」とともに、子どもと保護者とのコミュニケーションの実態に関する項目が加わり、また、教師との人間関係、友人との人間関係の2項目は、第3因子と領域が接近する境界に位置づくことが明らかとなった。この2項目は、主として学校における子どもの人間関係に関する実態把握を示している点が共通している。

## III 平成24年度における質問紙の構成とその分析

### 1. 調査項目の構成枠組

平成24年度版については、学校診断項目としての汎用性を高めるため、平成23年度版の検討をもとに次の修正を行った。

保護者調査では、子どもの実態把握と子どもへの働きかけについては、本調査が学校診断を主目的とすることから内容を整理し、項目を精選した。さらに、保護者による学校の取り組み理解に関する項目を拡充し、学校の教育指導の取り組みに関する評価と教師に関する評価、学校の保護者への働きかけ、保護者の学校への働きかけの4つの下位領域に分類した。これらにより設定された3領域6下位領域は次のとおりである。

- (1) 保護者による子どもの実態把握…5項目
- (2) 保護者による子どもへの働きかけ…3項目
- (3) 学校の取り組み理解…25項目
  - (3)1) 学校の取り組みへの評価…13項目
  - (3)2) 教師に関する評価…2項目
  - (3)3) 学校との親密度…6項目
  - (3)4) 学校の取り組みへの関心・参加度…4項目

以上、領域・下位領域ごとに項目数を示した33の質問項目を検討の対象とした。

### 2. 構成の枠組に関する検証

保護者用の質問紙については、平成24年度版によって平成24年11～12月に鈴鹿市内の7中学校を対象に実施した調査の資料により主成分分析（回転法はバリマックス回転を採用）を行い、抽出された各因子を検討した。

集計の結果は、有効回答数3177より、33項目から4

表1 保護者用質問紙（平成23年度）調査項目の主成分分析結果（回転後の成分行列）

		成分				
		1	2	3	4	5
問32	学校取組理解・友だち関係	.914	.043	-.007	.167	.016
問25	学校取組理解・基本的生活習慣	.912	.059	.038	.099	-.005
問28	学校取組理解・コミュニケーション能力	.910	.018	-.004	.181	.010
問24	学校取組理解・学習の重要性理解	.908	.032	.040	.122	.032
問27	学校取組理解・ルール遵守	.908	.028	-.005	.136	-.015
問26	学校取組理解・人権を大切に	.905	.035	.009	.132	-.018
問23	学校取組理解・学習への意欲的取組	.905	.008	.042	.126	.051
問29	学校取組理解・宿題	.902	.043	.043	.050	.021
問31	学校取組理解・自信	.900	-.007	.018	.196	.064
問33	学校取組理解・教師生徒関係	.878	.074	.055	.189	.047
問30	学校取組理解・読書習慣	.869	.056	.042	-.020	.073
問34	学校取組理解・子どもを見る機会	.862	.069	.072	-.190	-.037
問36	学校取組理解・保護者との対話	.843	.057	.060	-.112	.004
問35	学校取組理解・家庭への情報提供	.838	.047	.096	-.205	-.034
問39	学校取組理解・教員との対話	.822	.097	-.018	-.201	.049
問38	学校取組理解・学校情報認知	.798	.139	.099	-.261	-.063
問37	学校取組理解・学校行事参加	.772	.095	.090	-.264	-.007
問15	子への働きかけ・人権を大切に	.060	.807	.183	.022	-.102
問16	子への働きかけ・ルール遵守	.055	.807	.207	.010	-.056
問21	子への働きかけ・友だち関係	.069	.781	.081	.213	.201
問13	子への働きかけ・学習の重要性	.054	.772	.193	-.083	-.039
問14	子への働きかけ・基本的生活習慣	.032	.771	.260	-.094	-.093
問17	子への働きかけ・学校の出来事	.078	.736	.205	.043	.117
問18	子への働きかけ・宿題	.024	.732	.076	-.114	.169
問22	子への働きかけ・教師との関係	.098	.691	.111	.268	.292
問12	子への働きかけ・学習への取組	.052	.689	.296	-.087	-.061
問20	子への働きかけ・自己価値認知	.049	.624	.106	.262	.346
問19	子への働きかけ・読書習慣	.055	.574	.142	.022	.560
問6	子への働きかけ・出来事の報告	.024	.501	.320	.169	.074
問11	△子への働きかけ・教師関係良好	.112	.453	.444	.349	-.042
問10	△子への働きかけ・友人関係良好	.068	.448	.427	.362	-.213
問2	子どもの実態・学習を大切に	.065	.213	.815	.024	.194
問1	子どもの実態・学習への意欲的取組	.065	.176	.809	.010	.196
問7	子どもの実態・宿題	.036	.214	.753	-.072	.124
問3	子どもの実態・基本的生活習慣	.032	.321	.678	.035	-.037
問5	子どもの実態・ルール遵守	.030	.408	.635	.079	-.125
問4	子どもの実態・人権を大切に	.023	.413	.508	.242	-.151
問9	子どもの自信	.102	.241	.452	.512	.091
問8	子どもの読書習慣	.046	.183	.452	-.018	.570
固有値		1385	891	216	116	103

因子が抽出された(表2)。抽出された各因子を構成する項目について、予め設定された領域に含まれる項目との関連を記すと次のとおりである。

第1因子：学校の取り組みへの評価…13項目

- (3) 学校の取り組み理解 1) 学校の取り組みへの評価…13項目

第2因子：学校の取り組み理解…12項目

- (3)2) 教師に関する評価…2項目
- (3)3) 学校との親密度…6項目
- (3)4) 学校の取り組みへの関心・参加度…4項目

第3因子：保護者による子どもへの働きかけ…4項目

- (1) 保護者による子どもの実態把握…1項目

表2 保護者用質問紙(平成24年度)調査項目の主成分分析結果(回転後の成分行列)

		成分			
		1	2	3	4
問16	学校取組評価・人権を大切に	.837	.162	.125	.069
問14	学校取組評価・ルール遵守	.835	.167	.124	.048
問18	学校取組評価・友だち関係	.828	.168	.044	.133
問17	学校取組評価・自信	.810	.158	.102	.177
問13	学校取組評価・基本的生活習慣	.788	.156	.191	.038
問15	学校取組評価・教育問題対処	.752	.161	.047	.065
問19	学校取組評価・進路	.732	.190	.079	.169
問12	学校取組評価・レベル対応	.729	.141	-.022	.312
問21	学校取組評価・学校安全	.702	.175	.212	.042
問9	学校取組評価・学習への意欲的取組	.689	.157	.046	.316
問10	学校取組評価・宿題	.663	.165	.153	.172
問11	学校取組評価・読書習慣	.592	.155	.317	.035
問20	学校取組評価・部活動	.556	.151	.283	.113
問24	学校取組理解・子どもを見る機会	.074	.827	.106	.017
問28	学校取組理解・子どもの様子伝達	.241	.811	-.040	.115
問26	学校取組理解・家庭への情報提供	.170	.798	.092	.007
問25	学校取組理解・保護者との対話	.252	.795	-.001	.037
問29	学校取組理解・教育方針伝達	.296	.794	-.014	.075
問27	学校取組理解・進路情報発信	.228	.762	-.024	.114
問30	学校取組理解・学校への相談	.189	.756	.030	.106
問23	学校取組理解・教師の生徒理解	.324	.725	-.057	.182
問31	学校取組理解・学校情報認知	.010	.718	.250	.022
問33	学校取組理解・学校の取組協力	.020	.702	.227	-.008
問22	学校取組理解・教師の保護者信頼	.376	.685	-.024	.076
問32	学校取組理解・学校行事参加	-.008	.668	.258	.004
問6	子への働きかけ・基本的生活習慣	.169	.112	.737	.168
問8	子への働きかけ・学校出来事	.154	.104	.731	.102
問7	子への働きかけ・自己価値認知	.226	.072	.704	.174
問4	子への働きかけ・ルール遵守	.178	.071	.578	.348
問3	子どもの実態把握・授業満足	.277	.091	.139	.785
問2	子どもの実態把握・学習理解	.119	.056	.201	.766
問5	子どもの実態把握・教師への相談	.257	.144	.274	.513
問1	子どもの実態把握・学校適応	.194	.054	.362	.475
固有値		12.17	4.45	2.40	1.21



(2) 保護者による子どもへの働きかけ… 3項目

第4因子：保護者による子どもの実態把握… 4項目

(1) 保護者による子どもの実態把握… 5項目中4項目

保護者調査に関しては、平成23年度版では、学校の取り組みに関する第1因子と、子どもの実態把握に関する第3因子から第5因子までは、想定した構成とほぼ対応したが、保護者の働きかけに関する第2因子については、子どもの実態把握のうち子どもの人間関係に関する項目と領域が交錯していた。

これに対して、平成24年度版では、第1因子は「学校の取り組み理解」の下位領域として設定した「学校の取り組みへの評価」によって構成され、第2因子についても「学校の取り組み理解」の他の3つの下位領域の項目によって構成された。

さらに、第3因子は「保護者による子どもへの働きかけ」、第4因子は「保護者による子どもの実態把握」とほぼ対応した項目によって構成された。ただし、「子どもの実態把握」の項目として設定していた「ルールの遵守」は、第3因子の「子どもへの働きかけ」を構成する項目として分類された。

## V 考 察

### 1. 学校診断質問紙の構成における領域設定の妥当性

まず、学校の取り組み理解に関しては、「学校の取り組みへの評価」として設定した学校の教育指導活動に関する評価が独立した領域として成立した。ただし、「教師に関する評価」は、「学校との親密度」として設定した「学校の保護者への働きかけ」と、「学校の取り組みへの関心・参加度」として設定した「保護者の学校への働きかけ」とを合わせた、教育指導上の取り組み以外の学校の取り組み理解に包含される形となった。

次に、保護者の子どもへの働きかけに関しては、「ルール遵守」に関する子どもの実態把握の項目が包含される結果となった。これについては、社会規範に関連した保護者の働きかけの項目が設定されていなかったこと、「ルール遵守」の項目の設定が学校生活だけでなく社会生活にも関連していることから、家庭生活における保護者の関わりの文脈に位置づいたと考えられる。一方で、「ルール遵守」以外の子どもの実態把握に関する4項目はいずれも、その対象が子どもの学校生活に関わる内容である点が共通している。このことから、保護者の子どもとの関わりについては、働きかけと実態把握という保護者の意識や行動からの区分よりも、家庭や地域社会での生活に関わる領域と、学校生活に関わる領域という、子どもの生活場面による区分が示されたと理解できる。

以上のとおり、保護者調査については、保護者の意識や行動に関わる内容を整理して構成したところ、当初に設定した領域とほぼ対応する結果が示されたことにより、主として学校評価に関する基本的な診断指標としては、ほぼ妥当であると判断することができる。

### 2. 今後の課題

生徒調査と教職員調査と同様、保護者調査に関しても今回構成した平成24年度版の学校診断質問紙は、汎用性の観点を重視して、一般的にどの学校においても利用可能な構成と項目の設定を前提としている。したがって、個別の学校の具体的な実践活動に即した評価指標としては必ずしも対応していないものである。そのため、調査の実施に際しては、対象とする各学校に個別に確認し、必要に応じて各学校の個別の活動に即した内容や、共通に設定した項目には含まれていないが学校として特に評価を求めたい保護者の意識や行動についての項目を付加するといった対応が求められることになる。実際、今回のいずれの調査においても、事前に構想して提示・検討した質問項目の他に、調査対象校からの求めに応じて、独自に設定した項目を追加して実施している。とりわけ、本論で検討してきた保護者調査に関しては、学校ごとの取り組みに応じて、保護者の評価を求める事項が多様であることや、学校と保護者との連携に関する学校の方針や重みづけを反映して、相当数の項目を個別に追加した学校もあった。

したがって、保護者調査についても、どの学校においても共通に有効な評価を行うための学校診断質問紙を構成するという本論で設定した志向とは異なった、具体的な実践の成果等の評価を求める教育現場の要請にも対応できる学校診断のあり方の吟味が、学校の実践との関連においては今後必要であり、この点は、生徒調査と教職員調査と共通した課題である。例として、本論で提示・検討した質問項目を共通の基盤的事項を対象としたものとし、これに加える形で、各学校の実践に即した独自の事項に対応した質問項目を設定するといった2段階の構成をとること等が考えられる。こうした手続の有効性を、教育委員会と各学校とともに検討することが必要であろう。

## 文 献

- 1) 芝山明義, 葛上秀文, 佐古秀一, 小野瀬雅人, 久我直人, 小坂浩嗣, 阪根健二, 村川雅弘, 阿形恒秀, 末内佳代, 前田洋一 (2013) 「大学・教育委員会・学校と連携した教育改革に関する実践研究 (IV) - 鈴鹿市中学校における学校診断質問紙の構成について -」『鳴門教育大学学校教育研究紀要』No. 27, 49 - 58 頁

- 2) 前田洋一, 佐古秀一, 村川雅弘, 阪根健二, 小野瀬雅人, 小坂浩嗣, 久我直人, 末内佳代, 芝山明義, 葛上秀文 (2012) 「大学・教育委員会・学校と連携した教育改革に関する実践研究 (I) - 本学と鈴鹿市教育委員会との連携事業に関する学校支援の目的と経過 -」『鳴門教育大学学校教育研究紀要』No.26, 19 - 27 頁
- 3) 葛上秀文, 佐古秀一, 小野瀬雅人, 久我直人, 小坂浩嗣, 阪根健二, 村川雅弘, 末内佳代, 芝山明義, 前田洋一 (2012) 「大学・教育委員会・学校と連携した教育改革に関する実践研究 (II) - 鈴鹿市中学校における生徒質問紙調査結果より -」『鳴門教育大学学校教育研究紀要』No.26, 125 - 134 頁
- 4) 前田洋一, 佐古秀一, 小野瀬雅人, 久我直人, 小坂浩嗣, 阪根健二, 村川雅弘, 阿形恒秀, 葛上秀文, 芝山明義, 末内佳代 (2013) 「大学・教育委員会・学校と連携した教育改革に関する実践研究 (V) - 本学と鈴鹿市教育委員会との連携事業に関する学校支援の経過 -」『鳴門教育大学学校教育研究紀要』No.27, 31 - 38 頁
- 5) 葛上秀文, 佐古秀一, 小野瀬雅人, 久我直人, 小坂浩嗣, 阪根健二, 村川雅弘, 阿形恒秀, 芝山明義, 末内佳代, 前田洋一 (2013) 「大学・教育委員会・学校と連携した教育改革に関する実践研究 (V) - 鈴鹿市中学校における質問紙調査結果より -」『鳴門教育大学学校教育研究紀要』No.27, 101 - 110 頁

## 資 料

- 文部科学省 各年度「全国学力・学習状況調査」のうち「生徒質問紙」「学校質問紙」
- 文部科学省 (2010) 「学校評価ガイドライン〔平成22年改訂〕」